面白いアイデアが出たときに有効に活用すべきである，との意見が出された．

10. 日本気象学会細則の追加および規定の一部改定

萬納寺信崇庶務担当常任理事から，総会資料により，提案理由の説明があった．

11. 理事の辞任に伴う後任理事の選出

理事の辞任に伴い後任として理事会から推薦のあった3名の理事候補者について廣田　勇理事長より，推薦理由の説明があった．

12. 名誉会員の選出

理事会から推薦のあった6名の会員について廣田勇理事長より，名誉会員推薦理由の説明があった．

この件に対し，より詳しい推薦理由，業績などを公表してほしいとの要望があった．

13. 2001年度事業計画

萬納寺信崇庶務担当常任理事から，総会資料に基づき，事業計画の提案が行われた．

14. 2000年度収支予算

勝山　税会計担当常任理事から，総会資料に基づき予算案の提案が行われた．

15. 採　択

以上の議案に対し，総会参加票による意見も合わせ，賛成多数で承認された．

16. 議事録署名人の指名

議事録署名人に木本昌秀（気候システム研究センター），今須良一（同）を指名したところ，異議なく承認された．

17. 議長解任

中島映至議長により総会の議事運営に関する出席者の協力に感謝する旨挨拶があった後，議長は解任された．

18. 閉　会

萬納寺信崇庶務担当常任理事により総会の閉会宣言が行われた．

以上の議事録の通り相違ありません．

平成13年6月18日

総会議長　　中島　映至　印
出席者代表　今須　良一　印
出席者代表　木本　昌秀　印

新たな名誉会員の決定について

第31期理事会

5月9日の2001年日本気象学会総会における議案6で名誉会員に推薦された6名の方々が承認されました．総会で，議案書では名誉会員候補者の御業績が充分に説明されていないとのご意見が出されましたので，あらたに名誉会員となられた方々の御業績を簡潔に御紹介いたします．

（五十音順，御名前は会員名簿の記載によりました．）

Ooyama Katsuyuki（大山勝通）会員：

米国ニューヨーク大学，米国ハリケーンセンターにおいて，熱帯低気圧の発生の数値的理論的研究，および，熱帯低気圧発生に関わるCISK（第二種対流不安定）の新概念確立等の先導的研究業績をあげられました．

栗原宜夫会員：

米国地球流体研究所（GFDL）において，熱帯低気圧数値予報モデルの開発とそれを用いた熱帯低気圧の発生過程と構造の解明，高精度熱帯低気圧数値予報実用モデルの完成等，基礎的，先導的研究の業績をあげられました．

Sasaki Yoshi K.（佐々木嘉和）会員：

米国オクラホマ大学において，変分法の導入による力学的気象解析の創始をされ，またメソスケール気象研究教育組織を発展させ，この分野での日米の研究交流を推進されるなどの業績をあげられました．

竹内清秀会員：

気象庁，気象研究所において，大気境界層及び乱流の研究を推進され，日本における1960～70年代の基礎

的研究の先導的業績をあげられ，また大気汚染に関係する境界層，局地循環の研究を推進されました．

松本誠一会員：

気象研究所，気象庁において，日本の総観規模及びメソスケール擾乱を対象とする研究を推進され，1960～70年代における北陸豪雪，梅雨末期豪雨等観測プロジェクトの実施と，その観測成果に基づく先導的研究業績をあげられました．

真鍋淑郎会員：

米国地球流体力学研究所(GFDL)等において，大気大循環モデルへの放射対流平衡，積雲パラメタリゼーション(湿潤対流調節)，水文過程の導入による大気大循環の研究，海洋大気結合モデルによる気候変動の研究，温室効果気体増加による気候変化予測など先導的業績をあげられました．

なお，次の方々が，これまでに名誉会員に選ばれておられます．

☆佐藤順一会員，☆和達清夫会員，☆畠山久尚会員，☆正野重方会員，☆山本義一会員，☆高橋浩一郎会員，☆吉武素二会員，☆藤田哲也会員（☆印は故人）

荒川昭夫会員，礒野謙治会員，小倉義光会員，笠原　彰会員，岸保勘三郎会員，都田菊郎会員，村上多喜雄会員，山元龍三郎会員，

日本気象学会による地球環境問題への取り組みについて
―地球環境問題委員会の発足―

数年前に「地球環境科学関連学会協議会」が結成され学会レベルでの地球環境問題への関心が高まってきたなかで，平成11年の「日本気象学会評議員会」の席上で示された地球温暖化をはじめとするグローバル規模で顕在化しつつある環境問題に関する関心の高さを契機として，「日本気象学会理事会」を中心に地球環境問題への取り組みの気運が生まれてきました．その後，気象学会の総合計画委員会委員に数人の気象学会員を加えてワーキング・グループをつくって議論を重ね，その結果を平成12年の評議員会に報告し，気象学会として地球環境問題に取り組む決意を表明しました．平成12年5月の理事会において，「地球環境問題委員会」を新しく理事会のなかに置くことが正式に決まりました．少し遅れましたが気象学会員の皆様にお知らせします．

地球環境問題委員会は社会に向けた諸活動に専念するという原則的立場をとることを当面の条件としております．地球環境問題に対する社会の関心は高く，その内容は自然科学から工学，社会・人文科学の関連分野まで広範囲に亘っておりますが，気象学会としては，人間活動が関わる地球環境変動の実態と将来への影響などに関して気象学・気候学の立場から社会に正しく伝えていくことが重要と考えております．これは，広い意味での社会啓発活動であり，具体的には出版物の刊行，マスコミとの連携，社会人向けの公開講座などが含まれますが，新しい活動形態も今後検討していくつもりでおります．

地球環境問題委員会の構成は，木田秀次（理事：京大理学研究科），住　明正（理事：東大CCSR），近藤豊（理事：東大先端研），笹野泰弘（国立環境研），野田　彰（気象研），沖　大幹（東大生産研），森田恒幸（国立環境研），田中　浩（理事：名大環境学研究科：委員長）の8人で構成されています．生まれたばかりの組織ですが今後の発展のためにも，気象学会員各位の広範な支援を切に期待するものであります．

日本気象学会地球環境問題委員会
（文責：田中　浩）